

第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和4年度の取組状況について

第2期総合戦略を着実に推進するため、PDCAサイクルの考えに基づき、成果指標の達成状況について令和4年度の評価を実施

- 40の指標のうち、29の指標が「上昇」(72.5%)
 - 「横ばい」の指標はなし
 - 11の指標が「低下」(27.5%)
- うち10の指標が新型コロナウイルス感染症の影響(25.0%)

《評価基準》

「上昇」 基準値に対し上昇

「低下」 基準値に対し低下

「横ばい」 基準値に対し横ばい(変動率±0.5%の範囲内)

基本目標	上昇	横ばい	低下		合計
			コロナ	その他	
1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する	7	0	3	0	10
2 岡山市への新しいひとの流れをつくる	3	0	1	0	4
3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	5	0	0	1	6
4 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する	14	0	6	0	20
計	29	0	10	1	40

※第2期総合戦略に係る43の指標(※再掲12指標を含む)のうち、指標の調査周期に当たらず、実績値の把握ができない指標3つ(※再掲1指標を含む)を除く

(参考) 地方創生推進交付金等を活用した事業に係る検証概要

令和4年度の成果指標の達成状況
… 13指標 / 18指標 (72.2%)

▶ 目標が達成できなかった5指標のうち、4指標が新型コロナウイルス感染症の影響(22.2%)

※現時点で実績値が判明している指標を母数として記載

＜推進交付金活用事業＞	達成状況
まちの持続可能な開発を実現する真の生涯活躍のまちづくり	未達成 / 2指標
アフターコロナ時代の移住定住促進プロジェクト	3指標達成 / 4指標
西川緑道公園周辺を軸とした都心の賑わい創出プロジェクト	3指標達成 / 3指標
岡山市版スタートアップ・エコシステム形成によるスタートアップ創出事業	3指標達成 / 3指標
岡山ブランド魅力発信事業	3指標達成 / 3指標
＜拠点整備交付金活用事業＞	達成状況
造山古墳が結ぶ・日本遺産群広域連携拠点整備プロジェクト	1指標達成 / 2指標
元気でず“おかやま”～バス・ゲートウェイ整備事業～	未達成 / 1指標
高松城址公園を中心とした歴史・観光拠点整備事業	供用開始前のため実績なし

(1) デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ／旧地方創生推進交付金）

事業名 まちの持続可能な開発を実現する真の生涯活躍のまちづくり

担当局 保健福祉局

事業概要

実施年度 H30年度～R4年度（5カ年）

単位：円	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
歳出（事業費）	57,710,854	161,314,807	134,740,085	122,463,810	82,591,034
歳入（交付金）	(28,802,637)	(80,657,403)	(67,370,042)	(61,231,905)	(41,295,517)

全体事業の概要	<p>特定健診の結果から、国民健康保険被保険者に対してAIによる将来予測および一人ひとりに適した生活習慣改善の取り組みを提示する「AIを活用した健康見える化事業」を実施する。</p> <p>また、生活習慣を改善するメニューを豊富なものとし、市民の健康な生活を習慣化するため、身近に健康づくりが行えるフィットネスや飲食店等のヘルスケア関連企業と新たなサービスの開発を行うとともに、サービスを利用することによるインセンティブ付与の仕組みを「SIBを活用したヘルスケア推進事業」で構築する。</p> <p>さらに、地域活動や企業活動の担い手の確保のため、高齢者等の就労課題がある人について、その人の状態に合わせた適切な就労支援機関につなげる「SIBを活用した生涯活躍就労支援事業」を行う。</p>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ AIを活用した健康見える化事業 国民健康保険被保険者の特定健診データ等をAIで解析し、将来的な疾病リスクを見える化したうえで、一人ひとりに適した具体的な生活習慣改善メニューを提示し、行動変容につなげていく。 ○ SIBを活用したヘルスケア推進事業 35歳以上の岡山市民等を対象とし、「運動」「栄養・食生活」「社会参加」の取組についてインセンティブを付与することで、健康づくり無関心層を含めた多くの市民の健康づくりへの参加を促し、健康状態の改善と医療費の適正化を図る。 ○ SIBを活用した生涯活躍就労支援事業 民間就労支援機関と社会福祉協議会が連携し、高齢者等の就労支援や定着支援を行う。雇用先企業等に対しては、高齢者等の雇用に関する意識改革や労働条件の見直しを求めていく。

KPIの進捗状況

指標名	医療費抑制効果(千円)				
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
目標値	-	57,600	136,800	255,600	378,000
実績値	-	86,379	181,022	308,337	-

指標名	生活習慣の改善に取り組んでいる人の数 (人)				
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
目標値	-	6,000	7,000	9,000	-
実績値	-	2,658	4,056	5,683	-

指標名	ヘルスケア関連企業として生活習慣改善メニューを提供している企業の数 (社)				
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
目標値	20	25	32	42	-
実績値	21	62	68	69	-

指標名	就労・社会参加につなげた高齢者等の人数 (人)				
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
目標値	210	590	970	1,350	1,730
実績値	271	403	751	953	1,117

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	<p>地方創生に効果があった</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ AIを活用した健康見える化事業 AIによって判明した将来の健康リスクを見る化し、アプリによって日々の取組を支援することで、生活習慣改善に向けた行動変容を促すことができた。 ○ SIBを活用したヘルスケア推進事業 R3年度までの事業実施により、市民や従業員の健康に対する企業の意識の変容と、新たなサービスやメニューの開発等が促され、市民の身近に健康になる環境整備が進んだ。R4年度は第三者評価機関による事業の最終評価を行ったが、医療費抑制効果は目標には達しなかったものの、参加者は非参加者と比べ運動習慣や社会参加が改善又は維持されていたなどの一定の良い事業効果が見られた。 ○ SIBを活用した生涯活躍就労支援事業 企業へ的高齢者等の雇用に関する意識改革や労働条件の見直しについての理解促進は順調に進み、高齢者のニーズにあった就労のマッチング支援を行うことができた。
	<p>事業内容の見直し(改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ AIを活用した健康見える化事業 アプリ利用後の健診結果の分析やアンケートを実施し、事業効果を検証する。 ○ SIBを活用したヘルスケア推進事業 第三者評価機関による本事業の評価も踏まえ、引き続き、身近に健康的なサービスがある環境を整備し、より多くの市民が健康になれる環境づくりを、次年度以降の事業でも取り組んでいく。 ○ SIBを活用した生涯活躍就労支援事業 ボランティアに比べて支援時間がかかる就労へのニーズが高かったことや、SIBの活用の最終年度のため民間就労支援機関への振り分けを1月時点で終了したことにより、全体の人数としては伸び悩んだ。なお、2月以降も社会福祉協議会で受付・支援は継続し、次年度事業へ引き継いでいる。引き続き、利用登録者のニーズに合わせて、社会福祉協議会のボランティアセンター等関係機関と連携しながら、より効率的な支援を行っていく。
新年度事業見直し方針等	

事業名 アフターコロナ時代の移住定住促進プロジェクト

担当局 市民協働局、産業観光局

事業概要

実施年度	R3年度～R5年度（3カ年）
------	----------------

単位：円	R3年度	R4年度	R5年度
歳出（事業費）	63,038,706	57,401,738	
歳入（交付金）	(30,549,853)	(27,762,235)	

全体事業の概要	<p>①岡山市のことを知ってもらい、移住先として選ばれるための裾野を広げ、②移住するために最も重要な「しごと」を確実に確保するための支援を行い、③移住後の不安を解消するための支援まで、移住者それぞれに寄り添った支援を実施する。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響でテレワーク等の働き方の変化に対応し、④テレワーカー用お試し住宅、サテライトオフィス等の企業誘致を進める。</p> <p>これらの事業を確実に実施することで、地方移住への関心の高まりを逃すことなく移住者確保につなげる。</p>
事業内容	<p>1. 移住プロモーション</p> <p>本事業では、最新のデジタルマーケティング手法を活用し、ターゲットや地域、発信時間を定めて、ターゲット毎に異なるPR動画や情報を発信する。また、AI等を活用し、検索履歴から分析した各個人のニーズに応じた移住情報を、プッシュ型で発信することで、移住検討層をターゲットにした移住情報の発信も行う。</p> <p>また、産業振興部局とも連携しながら、テレワーク推進関係の支援メニューや、サテライトオフィス設置、創業支援関係等の情報も発信することで、起業を考えている方や、現在の仕事をつづけながら、地方で働くことを希望する方、または、地方にサテライトオフィス等の設置を検討している企業へのアプローチも行う。</p> <p>2. おかやまぐらし相談センター</p> <p>本事業では、東京と大阪に「おかやまぐらし相談センター」を開設し、移住希望者の要望が多かった「仕事さがし」「職業斡旋」について、職業安定法に基づく有料職業紹介事業の許可を受けた事業者に、運営等を委託し、移住希望者のニーズ、適性等から、「おかやまぐらし相談センター」が掘り起こした企業とのマッチング、企業との調整（面接日程等）、履歴書の作成ポイント等、就職に至るまでの寄り添い支援を行い、移住先での確実な就職につなげる。</p> <p>これにより、移住先でのしごとの不安を解消し、さらには、移住後のしごとのミスマッチを防ぐことが可能となり、移住定住促進につながる。</p> <p>さらに、イベントやセミナーを実施し、積極的に東京圏と関西圏の大学に足を運び、UIターン就職を働きかけることで、東京圏と関西圏等に在住の若者の地方移住を強力に進める。</p> <p>また、岡山市内にも拠点を設け、就職先の地元企業を独自に開拓し、移住希望者のニーズに沿った企業を紹介することが出来るような仕組みをつくり、数百社以上の地元企業を独自に就労先企業として登録している。</p> <p>このように、複数拠点を整備し、大規模なUIターン就職支援を実施する事業は、政令指定都市では類をみない取組であり、これらの取組を実施することで、今まで、希望するしごとが見つからないため移住を諦めていた方や、移住やUIターンに興味なかった若者の地方移住を進めることが出来る。</p> <p>3. サテライトオフィス等の企業立地支援</p> <p>岡山市にはIT系専門学校が多く立地しているものの、卒業生の受け皿となるIT系企業が少なく、また、そのことは、専門学校の講師となる人材不足にもつながっている。岡山市と市内専門学校が「企業誘致及び人材育成に係る連携協定」を結び、企業訪問やイベント出展等を通じて、協働で企業誘致活動に取り組む。また、IT系企業が専門学校に外部講師として社員を派遣する際の経費の一部を補助する（交付金対象外）ことで、岡山市の人材育成を図るとともに、都市部の企業（社員）が岡山市へ足を運ぶきっかけをつくって、関係人口として関わってもらうことで、サテライトオフィス等の設置にも繋げる。</p> <p>4. オンライン移住相談</p> <p>東京と大阪の「おかやまぐらし相談センター」、岡山市役所内の相談窓口、で対面の移住相談とともにオンライン移住相談を実施することで、いつでも、どこからでも相談者は相談可能となることで、移住相談数の増加が期待できる。</p> <p>また、岡山市役所内にオンライン相談ができる通信環境を整備したことにより、市職員、地元の移住支援団体、その他専門機関等、相談内容に応じて、柔軟に対応することができ、移住する上での個別の不安解消につなげることができ、さらに、先輩移住者から地域の情報を直接聞くこともでき、移住前から、地域の先輩移住者と関わることで、移住後の人間関係に関する不安解消にもつながる。</p> <p>5. 交流会</p> <p>移住後の定着に繋げるため、先輩移住者や地域の方々との交流会を定期的を開催し、移住者の生活面等での相談に対応する。</p>

KPIの進捗状況

指標名	移住・定住支援により移住した人数(人)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	70	75	80
実績値	71	164	

指標名	おかやまぐらし相談センターの支援により就職した人数(人)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	30	35	40
実績値	3	23	

指標名	おかやまぐらし相談センターへの求人登録企業数(社)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	220	110	110
実績値	206	127	

指標名	岡山移住プロモーションの動画再生回数(回)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	1,000,000	500,000	500,000
実績値	1,447,419	506,472	

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	<p>地方創生に効果があった</p> <p>○移住プロモーションについては、動画再生回数の目標値を達成し、移住関心層への情報発信を行うことができた。</p> <p>○おかやまぐらし相談センターについては、新型コロナ感染症の感染拡大による人流の抑制により目標値は下回ったが、令和4年度から東京の相談センターを利便性の高い場所へと移転したことなどもあり、全体的に年間を通して相談件数が増加し、就職した人数の増加につながった。</p> <p>○サテライトオフィス等の企業立地については、東京圏等での企業訪問や展示会出展等を行い、当市の立地環境や支援制度等を紹介することで、市内オフィスの見学や専門学校の特設授業への講師招聘が実現する等、企業が岡山市に関心を持ち、事業所開設の検討のために足を運んでもらう取組が進んでいると考えている。</p> <p>○オンライン移住相談では、場所や時間の制約等がなく、気軽に相談できるため、遠方からの相談者が出てきた。</p> <p>○交流会については、対面での開催を2回することができ、先輩移住者から話を聞いたり、移住者同士の交流により、お互いの不安を取り除く場となった。</p>
	<p>事業の継続</p> <p>今後の方針の理由</p> <p>○プロモーション動画については、ある程度長期間活用することを想定した汎用性の高いものを作成しているため、効果的な情報発信を行っていく。</p> <p>○東京や大阪で、移住相談の対応だけでなく、就職支援ができる相談窓口として「おかやまぐらし相談センター」の認知が進んでおり、今後も相談件数が増えることが期待できる。</p> <p>○オンライン移住相談や移住者交流会についても、移住希望者や移住者が気軽に不安を取り除ける場を継続して提供することにより、移住・定住を促進する。</p> <p>○企業訪問や展示会出展等を通じて東京圏等の企業と関係を構築し、講師派遣やオフィス見学等、実際に岡山市を見てもらう取組を継続しながら、将来的なサテライトオフィス等の誘致に繋げていく。</p>
新年度事業見直し方針等	

事業名 西川緑道公園周辺を軸とした都心の賑わい創出プロジェクト

担当局 都市整備局

事業概要

実施年度	R3年度～R5年度（3カ年）
------	----------------

単位：円	R3年度	R4年度	R5年度
歳出（事業費）	10,094,957	14,057,588	
歳入（交付金）	(5,047,478)	(7,028,794)	

全体事業の概要	<p>【事業の背景】</p> <p>○岡山市は、近畿と九州を結ぶ西日本の東西軸と山陰と四国をつなぐ南北軸のクロスポイントに位置しており、道路・鉄道・空路等の広域交通の結節点であり、中枢中核都市としてダム機能を担っている。</p> <p>○岡山県毎月流動人口調査の結果では、岡山市の社会動態（日本人）は、2017年までは転入超過であったが、2018年以降転出超過になっており（2019年421人の転出超過）、岡山市の人口ビジョンによれば、今後も人口減少は進んでいくことが見込まれる。人口減少が進むことにより、都心の賑わいの低下や地域経済の縮小が懸念されており、さらに新型コロナウイルス感染症の影響により、まちなかの人出はさらに減少しており、都心の賑わいづくりにも新しい生活様式への対応が求められている。</p> <p>○岡山市の代表交通手段をみると、昭和46年から平成24年の約40年間で、公共交通機関の利用や徒歩は著しく減少し、自動車利用が2.2倍に増加している。自動車の分担率は60%と全国的にも高水準となっており、自動車に過度に依存した状況にあり、滞留につながらないことから、まちなかの賑わいの低下につながっている。</p> <p>【全体事業の概要】</p> <p>「車中心から人優先の歩いて楽しいまちづくり」をキーワードに、歩道の拡幅等による快適な歩行空間の整備、道路空間や公園等の公共空間の活用を通じて、居心地がよく歩きたくなるまちなかの形成を地域と一体となり進めることで、回遊性の向上、歩行・滞留空間の創出による賑わいのあるまちづくりの実現を目指す。</p>
事業内容	<p>①西川エリアマネジメント事業</p> <p>○「安全で安心な住み続けられる街」へのルール作りや地域連携の推進(経済活動基盤強化)</p> <p>○エリアブランドのイメージを醸成する広報活動（情報発信）</p> <p>○新たな公園活用とにぎわいの創出(イベント)</p> <p>○都市再生推進法人の指定を目指し、まちづくり活動実績を積み上げるとともに、各種事業等の実施による収益確保の仕組みや運営体制の整備を図る</p> <p>②歩行者天国等イベントの実施</p> <p>③ライトアップイベント 西川夏あかり</p>

KPIの進捗状況

指標名	まちづくりやイベントへのボランティア参加人数(人)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	10	20	30
実績値	13	88	

指標名	官民協働による公共空間を活用したイベント回数(回)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	40	50	60
実績値	30	55	

指標名	総事業費に占める自己資金や協賛金等の割合(%)		
	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	90.8	88.8	85.8
実績値	94.1	75.0	

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	<p>地方創生に効果があった</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大がある程度落ち着き、イベント開催が可能となったことから、エリアマネジメント団体の収益が増えた。 個別の事業の検証については以下のとおり。</p> <p>○西川エリアマネジメント事業 イベント開催回数が増えたことで収益が増えた。また、都市再生推進法人(R4.3.8指定)として、引き続き、地域の町内会や自治防災会との共催による防災イベントやフリーペーパーの作成など地域を巻き込んだ事業を行うことができた。</p> <p>○歩行者天国等イベントの開催 新型コロナウイルスの感染拡大がある程度落ち着き、歩行者天国を3回開催できた。歩行者天国の実施にあたっては、学生を中心としたボランティア団体「N-ravi」がイベントの企画・運営に参加したことで、まちづくりやイベントへのボランティア参加人数が増えた。</p> <p>○ライトアップイベント 西川夏あかりの開催 後楽園や岡山城等のライトアップイベントと同時期に開催するなど連携を図ったことで、多くの来場者で賑わった。また、ライトアップイベントに合わせた音楽や飲食イベントも計画されるなど、イベントと連携した公園の活用ができた。</p>
	<p>事業の継続</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大がある程度落ち着き、イベント開催が可能となったものの、コロナ禍前の状態に戻ってはいないため、引き続き支援を続けていく。 エリアマネジメント団体として、都市再生推進法人に指定した「一般社団法人がらっと西川」を中心に地域と連携したイベントの開催や情報発信を通じて、地域コミュニティの醸成やプレイヤーの育成を行うとともに、収益確保や運営体制整備の支援を継続する。</p>
新年度事業見直し方針等	

事業名 岡山市版スタートアップ・エコシステム形成によるスタートアップ創出事業

担当局 産業観光局

事業概要

実施年度 R4年度～R6年度（3カ年）

単位：円	R4年度	R5年度	R6年度
歳出（事業費）	67,807,260		
歳入（交付金）	(33,903,630)		

全体事業の概要	<p>【事業の背景】</p> <p>岡山市では、「岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の具体的な施策として「新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興」を掲げ、「創業・起業支援」「市内中小企業の競争力強化」「企業誘致の推進」の3本柱に取り組んでいる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、価値観や行動様式が変化する中、イノベーションの必要性がこれまで以上に重要になっており、その担い手であるスタートアップの創出をより促進していくための支援は必要性、緊急性ともに高い状態にある。</p> <p>イノベーションを伴い、新たな市場を開拓することで、短期間で飛躍的な成長を目指すスタートアップについては、2019年8月1日にスタートアップ支援拠点「ももたろう・スタートアップカフェ（ももスタ）」を開設する等、中四国地方の市町村単位で唯一、スタートアップ支援事業に特化した形で取り組んでおり、スタートアップが生まれる素地が出来てきている。</p> <p>【全体事業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none">○岡山市版スタートアップエコシステムの形成を促進することで、スタートアップが継続して生まれる好循環をつくる。○スタートアップが継続して生まれ、増加することにより、<ul style="list-style-type: none">①イノベーションと新規雇用が創出される②イノベーションを伴った事業を生み出し、新たな市場の開拓、外貨の獲得、地域のデジタル化、市民生活の向上へ寄与する③地域経済が活性化されることによる市民の所得増、税収増④起業しやすい街となることでの若年層の定住率の向上 <p>が見込まれ、その結果、地域経済の活性化、人口増加の好循環を生み出すことを目指すもの。</p>
事業内容	<p>ももスタを中心とした「岡山版スタートアップ・エコシステム」を形成し、その中で、様々なステークホルダーが自発的に関わる事が出来るコミュニティの形成に向けた支援、環境づくりを行う。</p> <p>1 スタートアップ支援拠点運営事業</p> <p>官民連携組織によりスタートアップ支援拠点「ももたろう・スタートアップカフェ（ももスタ）」を運営し、起業家や投資機関などのステークホルダーのコミュニティ形成を図る。</p> <p>2 スタートアップ支援事業</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 起業家の掘り起こし等に繋がるイベント開催、起業家創出・事業成長のための集中支援(2) スタートアップの成長の鍵となる資金調達環境の強化を目的としたプログラムの実施(3) スタートアップと市が協働し、行政・社会課題の解決に取り組むプログラムの実施

KPIの進捗状況

指標名	市の創業支援による創業者数（人）		
	R4年度	R5年度	R6年度
目標値	35	40	45
実績値	45		

指標名	ももスタで開催されるイベントへの参加者数（人）		
	R4年度	R5年度	R6年度
目標値	1,000	1,500	2,000
実績値	1,245		

指標名	ベンチャーキャピタル等から投資が行われたスタートアップ企業数（社）		
	R4年度	R5年度	R6年度
目標値	3	6	9
実績値	3		

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	地方創生に効果があった
	<p>令和4年度は市の創業支援による創業者数及びイベント参加者数の目標値達成とともに、長期的な視点が必要となるベンチャーキャピタル等からの投資についても目標値を達成しており、市内におけるスタートアップが創出される土壌は着実に成長していると考えます。</p>
新年度事業見直し方針等	追加等さらに発展させる
	<p>スタートアップ支援に繋がるイベントやプログラムの開催により、起業に関心を持つ層の裾野の拡大に一定程度の効果があったものと考えます。</p> <p>今後は、若い世代から起業に関心をもってもらうため、中学・高校生の起業家精神醸成や起業家的資質向上を目的とした体験プログラムの実施、また、エンジニア人材不足が課題となっている中、起業家のビジネスアイデア実現やビジネスプラン成長に必要なスキル習得を支援するプログラムを実施する等、岡山市の経済成長の担い手として期待されるスタートアップへの支援メニューを強化し、スタートアップが創出され成長が促進される環境づくりに取り組んでいく。</p>

事業名 岡山ブランド魅力発信事業

担当局 産業観光局

事業概要

実施年度	R4年度～R6年度（3カ年）
------	----------------

単位：円	R4年度	R5年度	R6年度
歳出（事業費）	11,873,310		
歳入（交付金）	(5,805,795)		

全体事業の概要	<p>・都市ブランドになっている果物等を活かして、儲かる農業の仕組みを構築するため、以下の内容を目指す。</p> <p>①首都圏を中心に岡山市産農産物の情報（生産方法、こだわり、希少性など）を広くPRし、他の産地の農産物と差別化することで付加価値を高め、知名度を上げる。</p> <p>②首都圏の飲食店が岡山市産農産物を使った商品の開発・販売に取り組むことで、農産物の味、利用方法等の魅力を更にPRでき、その商品で売り上げに貢献した飲食店への販路を拡大する。</p> <p>③首都圏における農産物の知名度向上・販路拡大によって、農業者の所得増加と意欲向上を図り、「儲かる農業」として後継者・担い手の確保につなげる。</p> <p>④首都圏でフェアを実施することで、岡山市の認知度向上を図り、また、首都圏での取組を岡山市でも実施することで、観光誘客によって岡山市への人の流れを拡大させ、観光客に農産物をPRするほか、市民に地元農産物への愛着を涵養し、地産地消の機運醸成につなげるなど、関係人口の増加と地域経済の活性化につなげる。</p> <p>・首都圏で岡山市産農産物の付加価値及び認知度を上げて販路を拡大することで、儲かる農業の実現を目指し、さらには岡山市での農業の担い手の増加につなげる。</p>
事業内容	<p>【岡山地産メニューフェア】</p> <p>・産地訪問ツアー 首都圏の飲食店のシェフを岡山市に招き、岡山市の農産物や生産者と直接触れ合う機会を設け、岡山市産農産物の魅力を知ってもらう。</p> <p>・岡山地産メニューフェア 産地訪問ツアーに参加したシェフに岡山市の農産物を使った商品を開発してもらい、首都圏で岡山地産メニューフェアを開催して販売する。シェフに対しては、飲食店の売上に貢献できる農産物であると認識してもらい、岡山地産メニューフェア参加者に対しては、岡山市の農産物の魅力を知ってもらい、飲食店への販路拡大や取引量の増加、農産物を含めた岡山市の認知度向上を図る。</p> <p>・PR 岡山市農産物の生産情報（生産方法、こだわり、希少性、主な特徴等）の動画をSNSで広くPRすることで、消費者の興味・関心を高めるとともに、他の産地の農産物と差別化して付加価値を高め、知名度の向上を図る。 飲食店の情報提供サービスを運営している民間企業がもつサービス利用者の情報や、民間企業が保有する年齢や性別、嗜好などのインターネット利用者の情報を活用し、岡山地産メニューフェアに参加する可能性が高いターゲットを絞り込み、ターゲットングメールや広告（WEB広告、SNS広告）により岡山地産メニューフェアをPRする。 また、岡山地産メニューフェアに参加した人にアンケートを実施して、性別、年齢層、嗜好等の情報を収集し、次年度のターゲットング広告の精度・効果を上げる。</p> <p>・岡山市産農産物の講習会 産地訪問ツアーに参加していないシェフや、参加したが岡山市産農産物を取り扱っていないシェフに対し、岡山市産農産物の魅力を伝えるため、産地訪問ツアーに参加して岡山市産農産物を取り扱っているシェフによる講習会を開催する。 講習会後には、講習会に参加したシェフと岡山市産農産物の生産者をオンラインで繋ぎ、新たな取引に向けて支援する。</p> <p>・観光誘客と地産地消の機運醸成 令和4年度の岡山 destinations キャンペーンに合わせて、岡山地産メニューフェアを岡山市でも開催し、観光誘客、観光客への農産物PR、市民に地産地消の機運醸成を図る。</p> <p>【岡山サンドイッチフェア】</p> <p>・農産物を使用した商品の開発・販売 首都圏を中心にサンドイッチ専門店28店舗を展開する企業とコラボし、岡山市の農産物を使ったサンドイッチのメニューを開発・販売する。これにより、販売店に対しては売上に貢献できる農産物であると認識してもらい、サンドイッチ購入者に対しては岡山市の農産物の魅力を知ってもらうことで、販路拡大や取引量の増加、農産物も含む岡山市の認知度向上を図る。</p>

KPIの進捗状況

指標名	生産者と飲食店等の取引継続件数（件）		
	R4年度	R5年度	R6年度
目標値	3	3	3
実績値	4		

指標名	アンケートによる岡山市農産物の認知度（%）		
	R4年度	R5年度	R6年度
目標値	20	25	33
実績値	30		

指標名	首都圏における岡山地産メニューフェア事業に参加したシェフ数（人）		
	R4年度	R5年度	R6年度
目標値	10	10	20
実績値	10		

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	地方創生に効果があった
	KPI①については、達成済み。KPI②、③については、首都圏におけるメニューフェアに10店舗の飲食店が参加し、実施したアンケートでは岡山市農産物の認知度は30%となり、効果が見られた。メニューフェアでは12種類の岡山市産農産物が使用され、サンドイッチフェアでは岡山市産フルーツを使用したサンドイッチを2種類販売し、岡山市産農産物の認知度向上に繋がった。
新年度事業見直し方針等	事業の継続
	引き続き継続して実施していくことで、新たな農産物の取引の機会の創出と、岡山市産農産物の『高品質、おいしい』といったイメージの定着を図る。

(2) デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ／旧地方創生拠点整備交付金）

事業名	造山古墳が結ぶ・日本遺産群広域連携拠点整備プロジェクト
担当局	産業観光局

事業概要

実施年度	R元年度
------	------

単位：円	R1年度		
歳出（事業費）	54,614,710		
歳入（交付金）	(25,375,000)		

全体事業の概要	造山古墳ビジターセンターを整備することにより、造山古墳をはじめとする吉備路全体の魅力向上や周遊観光の促進を図る。また、校外学習としての活用を推進し、より多くの子どもたちの地域文化への理解、郷土愛の醸成を通じて将来的な地元定着の促進を図るとともに、文化財である造山古墳の歴史的・文化的価値や魅力を積極的に発信し、愛護意識の醸成を図る。
事業内容	<p>(1) 広域観光の推進 ビジターセンターを新設し、造山古墳はもとより周辺の日本遺産構成文化財や観光施設についても併せて情報発信するとともに、日本遺産関連事業とも連携し、吉備路の広域周遊観光の促進を図る。</p> <p>(2) 地元定着の促進 校外学習として利用する小学校をより一層拡大することに努め、子どもたちの地域文化に対する理解や郷土愛の醸成を通じて将来的な地元定着の促進を目指す。</p> <p>(3) 文化財としての価値の周知と愛護意識の醸成 地元観光ボランティアによる普及活動に加えて、同センターにおいて造山古墳の概要や歴史的背景などを積極的に情報発信し、同古墳の魅力や歴史的、文化的価値のより一層の周知を図るとともに、愛護意識の醸成を推進する。</p>

KPIの進捗状況

指標名	造山古墳ビジターセンター来館者数（人）				
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	13,000	13,260	13,530	13,870	14,300
実績値	8,700	15,787	15,880	18,582	

指標名	観光客入込客数（吉備路）（千人）				
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	990	1,000	1,015	1,030	1,045
実績値	960	375	189	723	

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	<p>地方創生に非常に効果的であった</p> <p>令和2年3月末に造山古墳ビジターセンター整備が完了し、令和2年4月にオープンした。令和2年以降、観光客の動向が新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中においても、来館者数が好調に推移するなど成果を上げている。</p>
新年度事業見直し方針等	<p>事業の継続</p> <p>○今後の方針の理由 今後も造山古墳ビジターセンターを活用した造山古墳や周辺観光施設の情報発信に取り組む。 地元の観光ボランティア団体等と連携しながら造山古墳の魅力や歴史的、文化的価値のより一層の周知を図る。</p>

事業名	元気で“おかやま”～バス・ゲートウェイ整備事業～
-----	--------------------------

担当局	都市整備局
-----	-------

事業概要

実施年度	R元年度
------	------

単位：円	R1年度		
歳出（事業費）	71,599,000		
歳入（交付金）	(28,715,284)		

全体事業の概要	岡山市営駅南駐車場において、本市の玄関口にふさわしい待合所を整備し、更なる観光誘客の推進を目指す。また、豪雨災害からの復興に向けて、建設にはC L T材を用い岡山県産材の普及促進による地場産業の活性化を図るとともに、太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの活用と「晴れの国 おかやま」としてのイメージ回復を目指す。
事業内容	<p>(1) 受入体制の強化と観光誘客の推進 本市の玄関口にふさわしい木のぬくもりあふれる待合所を整備し、受入体制の強化を図るとともに、市内観光関連団体等によりリニューアルされた本施設の情報提供や日本遺産関連事業におけるモニターツアー等での利用促進を図り、更なる観光誘客の推進を目指す。</p> <p>(2) 豪雨災害からの復興に向けた地域産業の活性化 岡山県真庭市（岡山連携中枢都市圏連携市）が普及を推進しているC L T（直交集成板）を用い建築することにより、C L T建築物の実物に触れる機会を創出するとともに、C L Tの概要、魅力等を掲示し、岡山県産材の利用促進を図る。</p> <p>(3) 豪雨災害からの復興に向けた「晴れの国 おかやま」としてのイメージ回復 太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーの活用を推進するとともに、「晴れの国 おかやま」のP Rを行い、本市のイメージ回復を図る。</p>

KPIの進捗状況

指標名	駅南駐車場利用台数（大型バス）（台）				
	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	16,252	16,672	17,102	17,542	17,992
実績値	14,260	7,393	8,399	10,080	

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	<p>地方創生に効果がなかった</p> <p>令和元年度は、整備工事（令和2年3月末完成）を実施した年度であり、工事スペースとしてバスの駐車枠を長期間減らしたこともあり、例年より大型バス利用は減少している。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和2年度以降は大型バスの利用が大幅に減少した。令和4年度からは回復傾向にあるので、今後の利用状況を踏まえ事業効果を整理する。</p>
新年度事業見直し方針等	<p>事業の継続</p> <p>令和5年度の実績を踏まえて、事業効果を検証する。</p>

事業名	高松城址公園を中心とした歴史・観光拠点整備事業
-----	-------------------------

担当局	都市整備局
-----	-------

事業概要

実施年度	R4年度
------	------

単位：円	R4年度		
歳出（事業費）	72,796,588		
歳入（交付金）	(34,312,182)		

全体事業の概要	<p>○岡山市は豊富な歴史・文化資源に恵まれており、国指定史跡数は18であり、政令指定都市の中では、京都市に次いで2番目となっている。市の中心部には岡山城や岡山後楽園、周辺地域には造山古墳（全国第4位の規模の前方後円墳）を始め、吉備津神社や吉備津彦神社等の全国有数の歴史・文化資源があり、これらの周辺地域の歴史・文化資源をストーリーとした「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」は日本遺産に認定されている。</p> <p>○周辺観光の観光客数は888千人（令和2(2020)年）となっており、後楽園・岡山城周辺の観光客数907千人と同等の観光客数となっており、周辺観光は岡山市の観光にとって必要な位置づけとなっている。</p> <p>○岡山市の観光入込客数は、平成28（2016）年の8,297千人をピークに横ばいとなっている。さらに、令和2(2020)年1月より世界中で広がった新型コロナウイルス感染症の影響で観光客数は激減し、特に、新型コロナウイルス感染症流行前に増加傾向にあったインバウンドに関して、令和2（2020）年8月では、流行前の平成30（2018）年同月比と比較して約99%の減少となっている。</p> <p>○歴史の転換期となる「高松城の水攻め」で有名な、高松城址公園周辺には、高松城址本丸、清水宗治の首塚、水攻築堤跡等の遺跡も残っており、周遊観光における重要な観光資源であり、この資源を活用した観光商品の開発とPRを行い、さらに、高松城址公園に訪れた観光客を、その他の周辺観光や岡山城等への観光に繋げることで、岡山市全体の観光客の増加、特に滞在型観光客の増加を目指す。これらを戦略的に行うことで、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく落ち込んだ観光業等（交通機関・宿泊施設・飲食業・観光施設・土産店等）を早急に回復させ、地域の雇用や、経済の回復、そして、更なる地域経済の活性化を目指す。</p>
事業内容	<p>「高松城址公園資料館新築事業」</p> <p>○既存の資料館をリニューアルすることで資料館自体の集客を増やすとともに、周辺の観光情報の継続的な発信を行うことで、広域周遊観光の促進を図る。</p> <p>○高松城址の概要紹介パネル（高松城の水攻めの様子や時代背景等）を作成するとともに、出土品や歴史資料を効果的に展示することにより、来館者に対して高松城址公園及び日本遺産の魅力を発信する。</p> <p>○新設する資料館に液晶案内モニター、椅子等を設置し、日本遺産構成文化財の中心的役割を担う施設として充実させる。また、小学校の校外学習に活用し、子どもたちの郷土愛の醸成を図る。</p>

KPIの進捗状況

指標名	観光客数（岡山市吉備路）（人）					
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
目標値	960,000	970,000	980,000	995,000	1,010,000	
実績値	-					

指標名	高松城址公園資料館来館者数（人）					
	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
目標値	10,000	11,000	12,500	14,500	17,000	
実績値	-					

検証・見直し方針

KPIの進捗状況の検証	<p>地方創生に効果がなかった</p> <p>令和4年度は新築事業を実施し、新資料館のリニューアルオープンは令和5年6月4日からとなり、これからの事業効果を見込んでいる。</p>
新年度事業見直し方針等	<p>事業の継続</p> <p>令和5年6月4日に新資料館がリニューアルオープンしたことから、事業効果が高まるように取り組む。</p>